

第2回 千葉県地方創生総合戦略策定懇談会 開催概要

- 1 日時 令和5年10月30日（月） 午後3時～5時
- 2 場所 千葉県自治会館9階 第2・第3会議室
- 3 出席者 明石座長 増田副座長 近藤委員 境委員 関委員 高橋委員 中島委員
中元委員 矢萩委員 吉野委員

4 議事概要

・（仮称）第3期千葉県地方創生総合戦略について

○明石座長

では早速、「（仮称）第3期千葉県地方創生総合戦略について」を議題といたします。
それでは事務方より説明をお願いします。

○角田政策企画課主幹

政策企画課角田と申します。

資料1、（仮称）第3期千葉県地方創生総合戦略骨子案をご覧くださいと思います。
前回、改訂に向けた基本的な方向性などについてご議論いただきましたが、そこでいただいた意見を踏まえまして、今回資料を作成させていただきました。

資料1をご覧くださいますと、各ページに二つのスライドが掲載されています。それぞれのスライドごとにページが振ってあります。例えば資料1、1枚目の下段、改訂スケジュールのページに1ページが振られております。以下の説明につきましてはこのスライドごとに振ってありますページ番号をもとにご説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは1ページ目の改訂スケジュールから説明させていただきます。

現在は10月、第2回策定懇談会において骨子案についてご意見、ご議論をいただく会とさせていただきます。

その後、1月に第3回策定懇談会を予定させていただいており、この時には今回お示した骨子案をもとに文章を肉付けした原案をお示ししたいと思います。

ただ、文章にしますと、分量が相当多くなると思いますので、懇談会で初めてお見せしてご意見をいただくのはかなり難しいかと考えておりますので、12月に原案を送付させていただき、ご意見をいただいた上で1月の策定懇談会を開催したいと考えています。その後、2月にパブリックコメントを実施し、3月に改訂という予定です。

1枚おめぐりください。2ページ目、改訂の経緯及び総合戦略の推移でございます。

前回もご説明いたしました、国が昨年末にデジタル田園都市構想総合戦略を策定したのを受けまして、来年、令和6年度までの計画であった県第2期戦略を今回改訂することが記載してあります。

続いて下段、3ページ目をご覧ください。総合戦略の内容になります。

1つ目が人口の将来見通しで、今年度社人研が発表した、国全体の将来推計人口であり、2070年には8,700万人まで減少すると見られています。また本県の推計でも、2060年には514万8,000人まで減少すると見込んでいます。

その下段が第2期総合戦略の計画期間における主な課題です。ここにつきまして、第1回策定懇談会で委員の皆様からいただいた意見などをもとに、第2期戦略のKPI、数値目標などを踏まえ、記載をしたものです。

参考資料1をご覧ください。

上段、1ページ目になりますが、人口の社会増を示しております。

前回の懇談会におきまして、2022年までの状況として左側のグラフをお示しさせていただきましたところですが、委員から2023年に入って東京回帰等の状況の変化があるのではないかとのご指摘をいただきました。また、外国人の状況なども踏まえたほうがいいという意見もいただきました。

右側のグラフをご覧ください。

2022年と2023年の7月までの県外移動の状況を日本人、外国人別でまとめたものです。青と水色が日本人、赤とピンクが外国人の動きとなっております。

見ていただきますと、一番右側に数字としてまとめておりますとおり、昨年に比べて日本人の県外からの人口移動が1,100人ほど減少している一方、外国人は1,100人ほど増加しています。トータルで見ますとほぼ同様の傾向となっております。

2ページ目をご覧ください。

県全体のトレンドとしては、今ご説明をした通りですが、地域別で見たときにはどのようなのかを示したのが、こちらのページになります。

目立っているのが、ピンク色の線の動きです。2022年4月に、外国人の社会増が大きくなっていますが、これはこの時期に新型コロナウイルス感染症の水際対策が緩和されたことによる動きになっております。

また、香取・東総、九十九里、南房総・外房の地域では、3月に大きく減少しておりますが、こちらは入学・就職のために転居するケースが多いと考えられます。なお、この移動につきましては県外よりも県内、特に東葛・湾岸ゾーンで大きな山がありますが、こちらに移動する人が多くなっていると思われれます。しかし、東葛・湾岸ゾーンでは、県内の他地域からの人口を受けとめているという動きもありますが、3月の社会増全体として見ますと、県内より県外から移動の方が多い状況になっています。

一枚おめくりいただきまして上段の3ページ目をご覧ください。

前回の懇談会で、人口移動とともに、インバウンドにつきましてもご意見がありましたので、それに関する資料となっております。

3ページは、全国のインバウンドの数字になっておりますが、2022年10月以降、観光客が回復し始め、2023年6月には、2019年比で72%まで回復しております。

4ページ目をご覧ください。

先ほど説明した外国人観光客のデータは都道府県別がわからないため、商用客も含んでしましますが、外国人延宿泊者数をみますと、全国では7月に2019年比で91.4%まで回復をしている一方で、千葉県は65.4%と回復が遅れている状況が見てとれます。

1枚おめくりいただきまして上段のページ目をご覧ください。

千葉県で回復が遅れている要因として、外国人宿泊者数を国別にみますと、もともと本県は中国の宿泊者数が多くなっており、一番下の色がついている2019年7月の中国人の割合は、千葉県48.3%、全国31.4%となっており、千葉県は全国より、2019年時点で、中国人の宿泊者数が17%近く上回っていました。報道等でご存知の通り、千葉県も含めて中国の観光客がまだ戻ってきていない状況であり、その影響から本県の宿泊者数も回復が遅れているものと考えられます。

一方で、アメリカやカナダからの宿泊者数は全国及び千葉県ともに2019年よりも大きく伸びており、新たな動きも出てきている状況でございます。

続きまして6ページでは、都道府県別で、東京、京都、大阪、福岡など大都市圏で宿泊客の回復が進んでいます。一方で、地方は回復が遅く、やはり商業を中心とした宿泊客の回復が早い傾向が見て取れます。

続きまして、1枚おめくりいただきまして、7ページ、8ページをご覧ください。

これ以降は、前回の策定懇談会で第2戦略の数値目標やKPIの状況を見て、振り返りをする必要があるのではないかとのご意見がありましたので、それに関する資料となります。

詳細については、今後開催予定の第2期戦略推進会議でご説明をさせていただきますが、今回は第2期戦略で示した課題と現状に関連する数値目標やKPIを中心にご説明をさせていただきますと思います。

まず下段の8ページ目をご覧ください。

第2期戦略で整理した課題及びそれに対する現状についてまとめています。第2期戦略の基本目標1「地域経済の好循環を生み出す環境づくり」に関しては、白丸で記載してあります、「様々な分野において人手不足への対応が急務」や、「雇用の場の創出のため、地域産業の競争力強化が必要、若者の東京流出に歯止めが必要」などの課題があったところです。黒ポツの部分は、当時の状況を記載しておりまして、例えば一番上、様々な分野において人手不足への対応が急務というところは、本県の生産年齢人口2040年にはピーク時の約8割まで減少するところことや、また一部地域で、人口減少に歯止めがかかってない状況を記載しておりました。

それに対して、矢印の部分が、課題に対する現状を整理しておりまして、現在も生産年齢人口は減少傾向にあります。また先ほどご説明した通り、県全体としては社会増の状況にはありますが、地域ごとに大きな差がある状況でございます。

また、7ページ目で記載してありますKPIに千葉県新規就農者数がございますが、ご覧の通り、新規就農者数右肩下がりになっている状況もあり、やはり、様々な分野での人手不足は引き続き課題であると考えられます。

8ページに戻りまして、産業の競争力強化では、製造品出荷額は現状でも全国8位となっていますが、農業産出額につきましては、7ページの農業産出額のグラフを見てもわかる通り減少傾向となっており、特に令和3年は本県で多発した鳥インフルエンザの影響もございまして、農業産出額は全国6位まで下がってしまっています。

また、若者の東京流出については、7ページのグラフにもありますが、23区との関係では、2019年までは転出を示す赤いグラフが高くなっており、転出超過の状況でした。新型コロナウイルス感染症の拡大以降、2020年には、転入を示す青いグラフが高くなっており、転入超過に転じました。一方で、折れ線グラフは転出者のうち、20歳代の若者が占める割合を示しており、現状でも、引き続き若者の転出割合は増加しています。

続きまして9ページ、10ページになります。こちらは第2期戦略の基本目標2「県内外に発信する魅力づくり」に関するところです。

10ページ、白丸の課題を見ていただきますと、観光客の県内周遊の促進や、県民としてのアイデンティティの醸成が必要との記載がありました。

上の9ページのグラフを見ていただきますと、観光入込客数については、新型コロナウイルスの影響で令和2年度に減少してから、まだ令和元年の水準まで回復していない状況です。また先ほど見ていただきましたが、外国人延宿泊者数の傾向も全国と比較して千葉県回復が遅くなっている状況です。

また、9ページの下段に、地域別の観光入込客数の状況を記載していますが、各地域、まだ回復をしておらず、特に千葉地域、東葛飾地域、印旛地域、長生地域といった地域で、令和元年比に比べて減少幅が大きくなっています。

また、課題の2つ目、アイデンティティの醸成については、同じく9ページ上段のKPIで、千葉に住み続けたいと考える学生の割合があり、こちらも増減を繰り返しながらも、全体としては減少傾向にあります。こうしたことが、本県からの転出者のうち20歳代の若者が占める割合が増加している要因の1つでもあるのではないかと考えております。

続きまして1枚おめくりいただきまして11ページをご覧ください。

第2期戦略の基本目標3「子育てしやすい社会づくり」に関して、策定時の課題としては、若者や女性が活躍できるような環境づくりが必要とされておりました。

KPIとしては保育所等の待機児童数を設定しており、策定時、平成30年は1,020人だったものが令和4年には140人まで減少しています。一方で、左側の数値目標、子供を生み育てやすいと感じる割合は、令和4年に大きく減少しております。これは、今まで紙で行っていたアンケートを電子に変更したことも一つ要因と考えられますが引き続き分析が必要と考えています。

また、出生数についても、全国でも80万人を下回ったと報道でもあったように、減少し続けている状況となっています。

続きまして1枚おめくりいただきまして13ページ、14ページを御覧ください。

第2期戦略の基本目標4「誰もが安心して暮らせる地域づくり」に関するところです。策

定時、交流基盤の更なる整備や、快適に暮らせる生活環境づくり、高齢者が活躍し続けられる環境づくりなどの課題が記載されていたところです。

交流基盤では、例えばアクアラインについて、上段13ページにグラフを記載していますが、土日祝日の特定時間内に交通が集中しており、周辺道路も含めて、かなり混雑が発生していたところです。現在、この混雑緩和の社会実験を実施しています。

また、圏央道等の道路整備や成田空港の更なる機能強化なども進んでおりまして、本県のポテンシャルが一層拡大する好機を迎えている状況となっています。

生活環境づくりについては、東京23区からの人の流れは、先ほどご説明したとおり変化してきており、これは、新型コロナウイルスを契機に本県の良さが再認識されたと考えられます。一方で、今年も台風13号等、県内で大きな被害が生じたことで、安全の確保に対する県民の期待は高まっていることを現状として記載させていただきます。

高齢者の活躍については、現在、人口減少が進んでおり、そのような中、社会の活力を維持していくためには、高齢者だけではなく、年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境づくりが必要になってくると考えております。

15ページ、16ページをご覧ください。

これまで説明させていただいた、第2期戦略の策定時の課題及び数値目標等の進捗状況などを踏まえて、現在策定を進めている第3期戦略の4つの基本目標ごとに課題を整理させていただいたものになっております。

まず、「働く」では、先ほども触れましたが、引き続き様々な分野における担い手不足の解消が必要となっています。また、本県のポテンシャルが一層拡大する好機を迎えていることから、それを生かした良質な雇用の場の創出が必要であること、さらに、新型コロナの影響で落ち込んでいる観光産業が未だ回復していないことから、観光客を引きつける高付加価値の観光コンテンツの醸成が必要あることを課題として整理させていただいています。

次に、「活躍」につきましては、人口減少による担い手不足がより深刻化することから、年齢、性別などにかかわらず誰もが活躍できる環境や、社会に出てからも必要なスキルを身につけられる環境が必要であること。また、千葉に向かう人の流れを加速するため、半島性を克服する交通ネットワークの整備や、地域のブランド化による移住等の推進が必要ということを課題として整理させていただいています。

次に、「育み・育つ」については、子供を生み育てやすいと感じる家庭の割合が減少していることから、子育て環境の一層の充実が必要であること、また感染症の影響もあり、出生数が減少していることから、安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備が必要になってくることを課題として整理させていただいています。

最後に、「暮らす」については、先ほど申し上げたとおり、大きな災害が多くなっていることから、快適だけではなく、安全で快適に暮らせるまちづくりが必要であること、また、新型コロナもあり、安心して受診できる医療体制にあると感じている県民が減少していることから、健康で安心して暮らせる社会の構築が必要であることを課題として整理させて

いただいています。

こういった課題等につきまして、ぜひ、ご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

資料1に戻らせていただきます。

先ほど説明させていただいた、スライド3ページ目、人口ビジョンの下部にある主な課題につきましては、今説明しました課題を記載させていただいています。

1枚おめくりいただきまして骨子案の4ページ、目指すべき理想像、千葉県の地域ビジョンについて記載しております。

まず、人の流れですが、先ほどから説明させていただいていますが、2023年も引き続き社会増が続いている状況に加え、外国人人口も増加しております。

こうした本県に向かう人の流れを、更に加速させるためには、本県の持つ魅力や可能性を伸ばしていく必要があると考えております。千葉県は、東京圏にありながら、豊かな自然、文化など様々な魅力を有しており、誰もが自分に合ったライフスタイルを実現できるリソースを持っていることから、地方創生を進めることで、目指す理想像である千葉らしいライフスタイルを創造し、人を惹きつけていきたいと考えています。

さらに、人の流れを一過性で終わらせるのではなく、こうしたライフスタイルに惹かれて千葉に集まった人が、新たな千葉らしいライフスタイルを創造し、それが広がっていくという好循環を作っていくと考えています。

この千葉らしいライフスタイルについて、前回の策定懇談会で、さらに深掘りしていくべきとのご意見をいただいたことから、事務局でたたき台をまとめさせていただいたものが参考資料2となっています。

千葉らしいライフスタイルとして、6つのライフスタイルを記載させていただいております。より具体像がイメージしやすいよう各ライフスタイルに対して、ペルソナを設定させていただき、これは、より多くの人に千葉でのライフスタイルを想像していただきたいとの考えに加え、このような生活をしていただくために、県としてどのような事業を進めていく必要があるかイメージしやすいよう、設定させていただいたものです。

まず1ページ目上段、ほどよく、住みよく、シティライフでは、パートナーとの同居をきっかけにより広い部屋を求めて都内から千葉に越してきたペルソナを想定しています。身近な自然や遊興施設などを楽しみながら、房総半島への小旅行などにも気軽に行けるライフスタイルがおくれるのではないかと考えています。

このペルソナでは、終の住みかではないように記載していますが、千葉に住んでいただけるきっかけというものがあれば、その後も定着していくことが見込めることから、こういったライフスタイルが必要なのではないかと考えています。

次に、遊び尽くす、趣味に全開ライフですが、これは都内に勤務している人で、趣味のサーフィンを満喫することを重視しており、趣味を通じて知り合った人から誘われることで新たな趣味に繋がっていくことを記載しています。千葉は都内に通勤できるところでも、海

が近い地域があり、サーフィンなどの海のアクティビティが楽しめるだけでなく、音楽フェスやキャンプなど、様々な趣味が楽しめます。都内へのアクセスも趣味へのアクセスもいいのが千葉の特長であり、千葉だからこそ、このようなライフスタイルがおくれるのではと考えています。

次に、2ページ目上段、千葉でのびのび子育てライフです。こちらについては、子供ができたことをきっかけに、一戸建てを求めて千葉に引っ越してきたペルソナでございます。千葉は首都圏の中でも、比較的手頃に戸建ての購入が可能であることから、広やかな住環境でのびのびと子育てができるかと思っています。実際に千葉には、子育て世代が引っ越してくる地域があり、選ばれる素地を持っていると考えています。

次に、千葉で謳歌するセカンドライフです。リタイアをきっかけに妻と一緒に地方に引っ越してきたペルソナです。千葉、特に沿岸部には、夏涼しく冬暖かい地域が多く、また、半島地域であっても、大きな医療機関へのアクセスがいい地域もあります。そういった地域で、思い立ったら成田空港を活用して海外旅行にも行ける、或いはかつて仕事をしていた時のスキルを生かしながら地域に貢献することができる、そのようなライフスタイルもおくれるのではないかと考えています。

また、リタイア世代が活躍することで、地域の活性化が図られて、加えて、医療や介護等で、それを支える人材の雇用も生まれてくることも期待できると考えています。

1枚おめくりください。

千葉でチャレンジ、スタートアップライフです。独立をきっかけに千葉のコワーキングスペースで事務所を立ち上げたペルソナです。リモートワーク等の新しい働き方を導入することで、有数優秀な人材を確保することを記載しています。千葉には、多くのコワーキングスペースやインキュベーション施設がありますので、そういったことから、このようなライフスタイルがおくれるのではないかと考えています。

最後、千葉で育む農業の新たな成功ライフです。農業関係の会社に勤めていたペルソナが、自分でも農業をやりたいと志し、東京に近く、人との繋がりをつくりやすい千葉で農業を始めました。ITを活用しながら効率化を図ることや、将来、成田の公設地方卸売市場などを活用して輸出にも打って出たいと考えています。千葉は農業が盛んであり、農業に関わるライフスタイルも、色々考えられるのではないかとということで、このようなライフスタイルを記載させていただきました。

以上が、千葉らしいライフスタイルに関する事務局のたたき台でございます。

委員の皆様におかれましては、内容はもちろんのことですが、戦略の本文に落とし込んだ時にどのような記載をすべきか、事務局も今考えながら進めておりますので、そういったところについても、ぜひご意見をいただければと思っております。

資料1にお戻りください。

4ページ目の一番下、千葉県の地域ビジョンである、千葉らしいライフスタイルにつきまして、今ご説明させていただいたところでございます。

5ページを御覧ください。千葉らしいライフスタイルを創造するためには、千葉の魅力や可能性を伸ばす「人」が重要であると考えています。そのため、第3期戦略の基本的な方向性を、「人が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす」としたいと考えております。

前回の策定懇談会では、委員から、「育み」については、子供からの視点も必要なのではないかという意見をいただきましたので、「育み・育つ」と変更させていただきました。

1枚おめくりいただきまして、6ページはイメージ図になっております。

7ページは、前回の策定懇談会で、委員からデジタルの可能性を示していただきたいと意見もあったことから、デジタルの活用について、基本目標ごとにまとめさせていただいたものになっております。

まず、基本目標1「働く」については、デジタル技術の活用によって、産業の生産性向上を図るとともに、新たなイノベーションやサービスの創出につなげていけるのではないかと考えております。

次に基本目標2「活躍」については、これまで物理的な距離の範囲内に人々の活動の場が制限されてきましたが、テレワークなどを活用することによって、人々の活躍の場が広がっていくのではないかと考えております。例えば、県においても、都内の人材と県内の地域、地域のニーズ等をつなぐ副業マッチングなども行っていますので、そういったことが可能になってくると考えています。

基本目標3「育み・育つ」については、教育などの分野で積極的に活用が図られておりまして、個別最適な学びや、教育的な学び等を一体的に充実させることが考えられます。

基本目標4「暮らす」については、社会基盤施設の点検や医療にデジタル技術が活用されることで安全性が向上することや、文化芸術の分野でも、デジタル技術を使うことによって、新たな表現が創出することも考えられます。

委員の皆様には、基本目標ごとに、こういったデジタルの活用方法もあるのではないかとということがございましたら、ご意見等いただければと思います。

8ページ目以降につきましては、前回もお示しさせていただきました基本目標ごとの具体的な項目になっております。この項目ごとに、今後は文章を記載させていただいて、原案を作成していきたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

○明石座長

ありがとうございました。

具体的に、第2期の課題に基づいて、第3期戦略はどのような方向性を目指していくかについてのご提案でございました。

千葉らしいライフスタイルのたたき台も新たに出て参りましたし、ある程度、年齢別になっていて、イメージしやすい提案もありました。

各委員の方々に、大体3分程度を目安に、今までの説明を受けて、第2期の課題を踏まえて、第3期戦略はこういう方向性がいいなどのご意見をお願いしたいと思います。

最初に申し訳ありませんが、千葉県全体はわかっている千葉日報の中元社長、お願いします。

○中元委員

県の当局の皆さんには、前回の意見も反映してもらい、人口の分析や、ご提案ありがとうございます。

私からの意見としては、第3期戦略骨子案の7ページに、基本的方向の4項目、働く、活躍する、育み・育つ、暮らすについて、上にデジタルという言葉をつけて、それを推進するという形に見受けられます。その中で、デジタルでどう人づくりをするかというところを、個別具体的に戦略の中でさらに進めていくものと思います。この部分について、もう少し踏み込んでいいのではというのが私の感想です。

本県の魅力や可能性を伸ばす人が重要というこのキーワードに沿って考えると、政治家がよく使うフレーズで、国づくりは地域づくりで、地域づくりは人づくりという言葉がありますが、やはり、この「人」が重要であって、その人づくりというのは、幼少期からすると教育であり、大人からすると、文化や、仕事等の様々なものが、人づくりのポイントになってくると思います。その中でも、やはり文化に関しては、千葉県は今年誕生150周年ということもあり、それに合わせ千葉文化資産も150件まで追加したところですよ。そのような中、人づくりと文化との設定みたいなものがもう少しあってもいいかと思えます。

基本目標4の暮らすでは、文化芸術などの新たな表現の創出による楽しみ等の実現を図るというのがありますが、もう少し、文化はやはり、ファッションから、食から、芸術から、哲学、言語、文学、時には法律も含まれることもありますよ、千葉文化資産では、祭りや、地域の色々なところで、文化に接するということがあります。人づくりの中に、地域文化の創出というところがあればいいというのが個人的な意見です。

○明石座長

はい。貴重な意見ありがとうございました。

新しい動きでは、例えば千葉大学はデータサイエンス学部を作ります。東京情報大学も千葉工業大学も非常に熱心だし、専門学校では、国際理工カレッジは、今定員を増やして、校舎も増えてきています。

中元社長がおっしゃるように、人材育成という視点で、専門学校と大学とタイアップして、人を育成していくことは大事だと思えました。ありがとうございました。

次に、中島委員は、労働分野に詳しいと思いますが、働く人の視点から見て、新しい課題があったらお願いします。

○中島委員

連合千葉の中島です。

私からは、連合は労働組合の立場ですので、働くといいますが、雇用や労働に関する課題認識を発言させていただいて意見に代えたいと思います。

まず1点目が、先ほど触れていただいたデジタル技術の活用についてです。色々な産業や、

社会基盤でDXが入っていくと思います。そのような中、デジタル化がどの程度進捗しているのか、実態把握も必要だろうと思いますが、そういったことをやっているかどうかということ。また、人材育成を含めたデジタル化導入促進の強化、中小企業へのDXの支援、イノベーションへの対応としては環境対策も必要ではないかと考えています。そういったことへの支援を強化していただければありがたいと思っています。

それから働き方に関してまして、企業では人的投資やテレワーク環境の整備等が進んでおります。特に産業構造の変化に対応した働く人の学び直しや、企業の職業能力開発に対する支援強化をしていく必要があるだろうと思います。その際に、雇用形態や、企業規模における格差が生じないように、特に弱い立場の労働者や、中小企業に対する支援策を講じていただきたいと思います。

それから、障害者の雇用についてです。こちらも2024年以降、段階的にその法定雇用率が引き上がっていくこととなります。そういった面について、ソフト面、ハード面、色々あると思いますが、働きづらさを抱えている方が、より働きやすい環境になるよう、支援をいただきたいと思います。

それから、外国人の話も出ていましたが、外国人労働者も非常に増えてきています。時には人権軽視をするような問題もあり、労働相談を通じて連合千葉に情報が入ってきています。日本で働く全ての外国人労働者の人権や、権利が保障されるような取組を進めていただければありがたいなと思います。

それから、就業形態も多様化しており、加えて、IT化の進展等もある現状で、「労働者」という概念でとらえきれない曖昧な就業者が増えていきます。コロナ禍を契機に、このような就業者のセーフティネットの脆弱性が顕在化しており、いわゆるフリーランス新法が作られました。従来の、労働関係法では対象とならない就業者の保護が喫緊の課題であると考えています。社会の実態や就業形態の多様化を踏まえて、労働者概念の早期の見直しと拡充が求められているということでございます。

それから、最後に、働き方改革を受けて、長時間労働や過重労働対策が、今後増加することが想定されます。高齢者や外国人労働者への安全対策も実行していくことが求められています。更には、いじめやハラスメント等を含めて職場の人間関係、テレワークの普及なども勘案したメンタルヘルス対策も必要だと考えています。こういったことへの取組を進めていただければと思っています。

○明石座長

はい。たくさんのご提案ありがとうございました。

個人的には、労働者、働く人の学び直しというのは大事かなと思っています。都道府県でも市町村でも、高齢者の社会教育、学び直しは行っています。ただ、現役といたしましうか、30代と50代が1番学び直したいと考える率が高いというデータもあります。そうしますと、夜間や土日に開設するような方向を考えてくれるとニーズに合ってくると思います。千葉県には生涯大学校がありますし、人気もあります。それも大事ですが、30代、50代

の層をキャッチアップすることも大事かと思えます。ありがとうございました。

次は、矢萩委員、専門の子育ての件も含めて、ご意見をお願いします。

○矢萩委員

和洋女子大学の矢萩と申します。よろしくお願ひいたします。

先ほどご説明を賜りまして、大変ありがとうございます。基本的方向において「育つ」という点も考慮していただきまして、申し上げた点が活かされていてうれしく感じました。

ペルソナとして、千葉らしさを表す6名の事例も挙げられており、大分イメージが具体的になったと思います。一方、若者の流出と、そして何と言っても調査方法に違いがあったことも影響したのかもしれませんが、子どもを生み育てやすいと感じる方の割合が大分減少してしまったところは、大変深刻に受け止めさせていただきました。

骨子案の「子育てしやすい社会づくり」というところを中心に拝見しましたが、感じたことは「育み・育つ」のスライド10基本目標3の例えば「未来を担う子どもの育成」のところ、もう少し教育DXの面を書き込んでいただければと思います。

大学教育でも今、教育DXの研修等が行われているところではありますが、どのようにしてデジタルを推進していくのかを書き込んでいく必要もあると感じました。

待機児童も依然として140人ということで減っているとはいえ、そういったところのようにこのデジタルを活用していくのか、利用者のニーズに応じているかいうところは、依然として課題だと考えています。

また、現場の質の向上ということで言えば、待機児童は減りましたが、そのあと、生み育てやすいと感じていただく必要がありますので、そこにデジタル技術というものがうまく作用していかないものかと感じました。

それから、この4つの基本目標を拝見したときに、個別に立っているようなイメージがございませう。「人」が重要であり、人が生まれて、育まれ、育ち、そして教育を通り、働いて、活躍する、それらをつなぐものがデジタル技術であるというようなイメージを表せたら良いのかなと思います。基本目標1234を、デジタル技術を活用することによって、現実化していけるということが図式化の中に生かされていくと良いのかなと感じました。

最後に1点、生成AIの問題で、ガイドラインも県から出ておりますが、デジタルを推進していくのであれば、そこに触れる方が良いのではないのでしょうか。デジタルが人を凌駕していつてしまうことが懸念されますので、生成AIをどうとらえて、抑えて、そして活用していくのかということが、入るべきなのではないのかなと感じました。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

今、矢萩先生がおっしゃるように、第3期戦略のデジタル化の推進、4つの基本目標に、1本筋を通すというのは非常に大事なもので、今後の課題だと思います。

その辺で、境さん良い知恵がありましたら、それも含めてお願いします。

○境委員

前回の私達の意見を受けとめていただいて、県の皆様にはこのような良い資料を作っ
ていただいて、本当に感謝を申し上げたいと思います。

まず、人にスポットを当てて、人が働き、活躍し、育み・育ち、暮らすというこの基本的
な方向性は、大変いいなと思いました。

この「人」というのが誰かということですが、先ほどのご説明の中にありましたように、
例えば、若者の東京流出であるとか、千葉に住み続けたいという割合が低下しています。な
ぜでしょうか。また、待機児童のお話もありましたが、数は減ってはいるが、質はどうなの
でしょうか。最近ニュースで話題になりましたが、フリースクールの存在で、学校に行けな
い子どもたちも増えているといったところで言うと、千葉ではどんな手当ができてい
るのだろうか。そういった「人」にスポットを当てるからには、色々な角度でそれを分析して、
方向性を出す必要があるのかなと思っています。ご提示いただきました参考1の中に様々
な指標やKPIが出ておりましたが、それで足りているのかということについて、議論を深
めるべきなのか。とは言っても、こうやってこう綺麗にまとまってはいるので、ある程度ま
とめた上で次のアクションとして検討すべきなのか、その辺が、いただいた資料を拝見しな
がら、私自身の中で少しもやもやしていたところですので、もしこのことについて、県の皆
様からご教示いただければと思っています。

それから、「人」の関連で言うと、参考2にペルソナをたくさん出していただきまして、
非常に色々な年代や、ダイバーシティに富んだペルソナを設定していただいておりますが、人
を呼び込むという観点では良いと思いますが、実際、今千葉県に住んでいる人、台風災害が
あったり、農家で苦勞されていたり、色々な課題を抱えた中で、千葉に住み続けていただ
いている人にもスポットライトをあてるべきだろうと思いました。このペルソナの設定をも
う少し幅広くしていくと、より総合戦略の中に深みが出るかなと感じました。これが1点目
です。

それから2点目ですが、デジタルの力、デジタルの活用というところを、資料に盛り込ん
でいただいて、大変ありがたいなと感じているところでございます。気をつけなければなら
ないのは、この施策ベースになった時に、例えば、資料1の8ページ目、基本目標1の7番
目に千葉の強みを活かした観光地の整備があり、ウとして国内観光プロモーションの展開
があります。これは広告を出して、千葉県外の人に来てねと伝えて、遊びに来てもらい、キ
ャンプに来てもらって、お金をおとしてもらって帰ってもらう。そのイベントをやってよか
ったねというだけでは、単発に終わってしまう。それをマーケティングデータとしてどう蓄
積をして、次に活用できるかというところまで、踏み込むべきだと思います。それは観光に
限らず、産業分野や経済分野においても、これからデジタルの力を活用していくためには、
そのデータをどう活用するか、プラットフォームをどう作っていくか、それも単発ではな
くて、施策間で連携し、県民の質の向上、生活の質の向上、来ていただく、移住していただく
方の増加などに結びつくようにしなくてはならないと思います。そういった観点でのデー
タ活用と真の意味でのデータ活用というものが、今回の総合戦略の中に盛り込まれると、よ

り発展的かつ深みのある提言なのではないかと感じているところです。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

千葉県では、大学は私立大学40校、国立は1校、専門学校が73校、短大10校あり、かなり若者が、学生が多いと思います。その学生がなぜ千葉に残らないで外に出ていくか、彼らは何を求めているかという視点が大事かと思います。

ある意味では外国人と同じかなと思います。外から見たときに、千葉にはこういう魅力があるということを、データで示していくとか、情報発信していくような場、その情報を拡散するという方向が大事かと感じました。

ただZ世代は、昔のホームページではもう駄目ですね。短大にいるときに、ホームページを見るのは、保護者等と教育関係者で、高校生はホームページを読まない。皆、SNSのインスタグラム等で情報を引っ張ってくる。情報発信の仕方を多様化していかななくてはならないというのは、今の話をお聞きしながら思いました。ありがとうございました。

では、関先生、全体を見られて、ご意見お願いいたします

○関委員

はいありがとうございました。

今回の資料を拝見しまして、相当な時間をかけて準備されたのかなと思って、県の皆様に感謝申し上げたいと思います。今までにない新たな文章や図もたくさん用意していただいているので、大分理解が進みました。

全体としては、非常にいいものができてきている、先ほどのペルソナの話も含めて取組として新しいことを考えているという点に好感というか、すごくポジティブに受けとめさせていただきました。

今回、第2期の問題点が書かれています、第1期戦略ができてから5年、6年で、急に全部が変わるわけではなく、基本的に課題が全部入れ替わることが起きているわけではないと思いますので、作りとしてこういう形になっていくと思います。

ただ、1期2期と違っている部分や新たに加わった部分をわかりやすく示したほうがいかなと思います。一覧のような形で整理してしまうと、前に見たことがある話が並んでいる印象になってしまう。どこが新しいのか、そうすると先ほどから委員の皆さんがおっしゃられているように、デジタルだと思います。デジタルの要素を新たにはっきり入れましたということを見せていくことが必要だと思います。

デジタルに関して言うと、まだ具体的なことがあまり書かれておらず、これから書かれていくと思いますが、そこはすごく難しいと考えていて、日本がそもそも国全体としてデジタル化がうまくいってないので、デジタル田園都市構想総合戦略を策定した。そういう発想になっているので、県だけではなくて、日本全体うまくいっていない。その中で、千葉県としてはデジタル化として、こういうことやるという、一般的なことも、少し違う特徴のあることも書いていくことが必要ではないかという印象を持ちました。

また、これから県にお考えいただければと思いますが、デジタル化に関し、県ができることはそんなにあるわけではないと思っています。官民で考えると、官が持っているデータがたくさんあって、官しか持ち得ないものをどうやって民間が活用できるようにしていくかが、県ができることだと思います。今日見せていただいたデータ等を、普通に企業や県民等が見ることができる状況になっていた場合に、様々な主体が色々なことを考え、ビジネス等に反映していくかもしれない。いかにして、官の持つデータを使えるようにしていくかというところは、行政のデジタル化と関係していると思いますが、これからできることだと思います。

あと先ほどのペルソナについて言うと、これは県外の人を呼び込むためのマーケティング的なペルソナだと考えています。境委員がおっしゃられた、そこにもともと住んでいる人等の課題はペルソナがつかれないぐらい、極めて多様だと思います。もともと住んでいる人をペルソナとして設定してしまうと、そこから漏れた人が、うちはずっと住んでいるのにどうということだとなりかねない。使い方を工夫すればこういうペルソナは、県外の人に対するアピールになるし、千葉から出ていった人に戻ってもらうためのアピールにもなるのかなと感じました。

また、人材育成に関して、デジタルに絡めて言いますと、学校で、そのような人材育成は、もちろん行われていて、これから社会に出てくる若い人達はそういうデジタル的な感覚がないと社会で生きていけないと思いますので、必死で勉強しています。しかし、すでに社会に出てしまった方たちに、どうやってデジタル的な感覚を身に付けてもらうのかということを考える必要があります。

デジタルと言っても、デジタル専門のビジネスだけじゃなくて、例えば、デジタルのツールは使いやすい、便利だというようなことをどう県民の色々な人たちに周知したり、使える環境を整えたりしていくのか。人材育成と言うと、専門職を作るみたいなイメージがありますが、そうではなくて、デジタルツールを使えるような環境で、使える人たちを増やしていくという意味でも、教育や啓蒙、そういう活動もすごく大切ではないかと思います。そうしなければ、お年寄りにはデジタルが苦手で、使うことができず、取り残されてしまうのではないかと思います。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

色々なことを行っていくのが県の仕事だと思いますが、関委員がおっしゃるように、第3期はこの辺の新しいことに焦点化していくことが大事かと感じました。

とはいっても、第3期の打ち出そうとしているデジタル化は、やはり難しいと思っています。例えば、私が敬愛にいた時に、短大生が2年間で、自分でホームページはつくれるように人材育成しましょうという教育をしていました。このような情報発信の方向が1番。もう1つは生活に生かす。例えば、スマートフォンで商品を注文したり、自分の健康を維持するためにDXどう使うかだったり、そういう生活レベルのことが2番。3番目は企業において、

DXをどうやって使っていくかという点。その辺を、ぜひ県の方で、千葉大学の先生や、東京情報大学等で働いているご専門の方もいらっしゃるので、そういう方たちに話をお聞きして、アドバイスをもらうことも必要かなと感じました。ありがとうございました。

では、高橋委員、非常に経済格差が深まる中で、社会福祉関係の方が大変増えています。社会福祉協議会の視点から、ご意見ありましたら、お願いします。

○高橋委員

今、関委員からも高齢者の話が出ていましたが、高齢者の方々はデジタルが苦手ではありますが、それでも、市や、社会福祉協議会で、例えば、LINEの説明をしますと、参加される方も多くいらっしゃいます。

また、今説明いただいた中にあったとおり、人口が減ってきています。そうすると、1人の高齢者が地域の中で多くの仕事を受け持って、ボランティアをしているといったことが多々あります。例えば、私は民生委員もやっていますが、この民生委員の中で、他に何もやっておらずに、民生委員をしている人は1人もいません。お仕事を持っている、ちょっと体は弱くても少しは動けるという方や、最近では孫育てに関わっている高齢者もおります。そういった意味では、本当に今日の説明の中にあった、基本的な方向性の「活躍する」の中で、フル回転している高齢者の視点を置いていただければいいのかなと感じるところです。

それから、千葉県の中には、「子育てしやすい」を謳っている市町村が多く、それは本当に手厚く、子育てに力を入れております。先ほど、千葉らしいライフスタイルで、子育てをきっかけに千葉に住むようになったというペルソナについて、ご説明いただきましたが、のびのびと子供を育てたいという方はたくさんいると思います。ただ何をもってのびのびとするのかというと、自然の中で自由に遊ばせたいだけでなく、教育にも熱心な方がいらっしゃいますので、その辺も含めて、ただ、呼び込むだけでなく、事業も行っていただければいいのかなと思っております。

また、骨子案の8ページ、9ページ等の施策体系の中で、何々の強化、何々の強化という記載がありますが、その辺は後程、具体的に追加されるとは思いますが、やはり強化とただいうのではなく、実際に動かれる方たちにしてみれば、具体的な記載が欲しいかなと感じおります。私からはその辺のところを、折り込んでいただければと思いました。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

今、近藤委員がいらっしゃいました。本日はよろしく願いいたします。

では次に、商工会議所連合会の吉野委員、お願いいたします。

○吉野委員

それでは時間が許す限り、3、4点ほど述べさせていただきたいと思います。

本当に充実してきている資料で、これからも私達の意見が反映されて、充実していくのを期待しておりますので、よろしく願いいたします。

その中で1つ、先ほどライフスタイルの話で、これはこれでイメージとしてはわかりやす

いなとは思いますが、この中から千葉らしさというイメージ・要素を抽出した上で、それを組み合わせる形で様々なライフスタイルを、今、していませんではなく、これからこの戦略の中で提案するというのも面白いのではないかなと思っておりまして、1つ提案させていただければと思っております。

2点目は、新たな産業用地の確保についてです。

地方創生により、千葉らしさや千葉の立地優位性はこれから鮮明になってくるものと思っております。それは、企業誘致においても、大きなセールスポイントになってくると思います。ただ、現実問題として、産業用地は現状では不足していると認識しております。産業用地は企業誘致する場合の前提になってくるもので、土地があるから誘致ができます。土地がなければ優位性があっても、なかなか誘致ができません。土地の確保については、より積極的に、千葉らしさを踏まえた施策を打ち出していくことが望ましいと思っております。

3点目は、多様な人材の活躍と地域経済の活性化という観点から、農福連携を取り上げてはいかかという提案です。

すでに県内でも、農業サイドのJAさんや、或いは社会福祉施設の方も取り組まれている例があると聞いております。もう少し、これをクローズアップしてはどうかということです。

言うまでもなく、農福連携は、農業と福祉の連携ということですが、農の方でも、水産業、畜産業、林業などで大きな広がりを見せておりますし、また福祉の方から見ても、生活困窮者や、ひきこもりの方、ホームレスの方をなども、視野に入っているようでございます。

さらにこの農福連携にプラスアルファして、農福商工連携、まさに経済の活性化に繋がるような、農福商工連携というようなタイプも今は提案されているようでございます。

こうして考えていくと、千葉らしさも生かせると思えますし、それぞれの分野の持つ課題についての1つのソリューションを提供できるものなのではないかなと思っております。

実は昨日一昨日と、農福連携全国フォーラムが、岐阜県でありまして、そこに参加してきました。全国的に見ても、非常に広がりを持った形になったなと実感したわけです。

今日、策定懇談会の機会がありましたので、千葉らしさということを考えると、それを加味しながら、まさに千葉らしい農福連携のあり方、こういったものも、経済や多様な人材の活躍など、様々な分野に関わってくると思っておりますので、横断的な分野でやってみたらどうかと思っております。

4点目ですが、いずれにしましても、総合戦略は、県が動くだけでなく、多様な主体に動いてもらわなければいけない。そのため、戦略そのものを広報しなくてはいけないと思っております。広報は、個々の事業だけでなく、この戦略を売り込んでいく広報戦略も重要ではないかと感じております。広報の世界では、「知られてない」ということは、ないということと同じだという言い方をよくされるそうです。ですから、情報発信して、それを受け取ってもらって、色々な主体と議論することによって、行動変容を促していくという意味では、戦略そのものに広報戦略が必要じゃないかと、お話を伺いながら感じた次第です。例えば、その広報戦略をこの地方創生総合戦略の中に組み込むのも面白い試みかと思っております。

いずれにしても、これから、委員の皆さんと意見を出し合って、戦略を充実させていく、一緒に作っていくことを非常に楽しみにしていますので、今後ともよろしく願います。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

広報戦略は各分野に任せることも大事ですが、一括で広報戦略を練っていくキーステーションが必要かと思っています。この夏、民間のテレビで千葉をすごく宣伝してくれていました。ああいう宣伝がお金を換算するとこれだけになるということも含めて、まとめて県がこれだけ経済的な影響がありましたと広報するのもいいのではないのでしょうか。千葉にはこういうものがありますというだけではなく、そのような広報をするとこれだけの経済効果がありますということも含めて、県で部署、人材を含めて集めたうえで、練っていくことも大事ななと思いました。ありがとうございました。

では、増田副座長、お願いします。

○増田副座長

本日の資料、非常に細かいところまで記載していただいている、ありがたいことだと思っています。その中で最大のテーマである千葉らしいライフスタイルの創造を目指していくための戦略であると理解をしております。また、今回の改訂に当たりましては、地方創生の中にデジタル技術を盛り込んでいく、現在取り組んでいるものをより進化させていくところが命題なのだろうと思っています。

そういった中で、市町村からしますと、吉野委員が非常に前向きなご発言をされたあとに、マイナスの発言になってしまいますが、これだけ大きなテーマがあり、基本目標4つについて、丁寧に記載いただいている中で、この戦略と同じ方向を54の市町村が向けるのかという心配があります。その辺はやはり、市町村ごとに、現場の違いといいますか、様々な違いがあると思っています。今回ご提示いただいた地域ごとの人口のとおり、人口の増減でも大きな違いがございます。そういった中で、このゾーンを前提にしたとしても、ゾーンごとに千葉らしいライフスタイルは違うのではないかと思います。また、市町村ごととしても、例えば、お子さんの多い地域では、これまでも第3期に掲げられている目標事項のうち、大多数のものに取り組んできている中で、待機児童の解消に一生懸命取り組まなきゃいけない市町村であったり、高齢化が進んでいて、医療・介護・福祉に重点を置いてやっていかなきゃいけない市町村であったりというような違いがあると思っています。

そういった中で、限られた財源、限られた人材の中で何を重点的にやっていくのかというところは、多少違いが出てくる場所がありまして、この戦略についての市町村の理解を、丁寧に進めていただけたらと思っています。

また、基本目標4の中にスマート自治体の実現という項目があり、市町村DXの推進に向けた連携支援を明確に掲げいただいていることは市町村の立場からすると、非常にありがたいことだと感じております。

特に市町村のDXでは、県民全体の扱いや手続きなどは均一化されなければならない、逆に地域差があってはいけないと考えております。こういったところでの市町村との連携、もしくは市町村間の連携を、丁寧に進めていただけることは市町村としてはありがたいことだと思います。これに限らず、市町村は県なり、国なりの情報提供を逐次いただきたいということを、常日頃から聞いておりますので、そういった連携を密にして、進めていけるようなものになったら、とてもありがたいことと思っております。

県でも、従前から、経済的なことと言えば、成田空港の更なる機能強化について、その効果は成田空港周辺地域だけではなくて、全县に波及させていくという目標を、常に掲げてきていただいたと認識しておりますので、そういったところも含めまして、各市町村が、これに向かっていけるような取りまとめをお願いできればと考えております。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

約40年前に平松大分県知事が一村一品運動をやっていました。ふるさと納税もある意味ではそれと同じで、返礼品が一村一品だと思っています。ただ、これからは、総務省も変わってきて、自分のところで作ったものしか出してはいけませんと言っています。まさに54市町村の一品を作り上げていく。それを県の広報戦略で全体的に出していくなど、そういうことをやっていただくと助かるかなと思いました。

はい。近藤委員お願いします。

○近藤委員

私の方からは、先ほどから聞いていると千葉らしいという言葉が出てきているのですが、私は実は大阪出身なので、あまり千葉のことは詳しくはないのですが、千葉らしいというのが本当に魅力的だろうかという疑問を持っていて、このシティライフというのも、どういうものかよくわかりません。

千葉らしいライフスタイルを読んでいて思ったのが、どれを読んでも、千葉県に住んでいて、千葉が好きなお人の思い込みじゃないのかなというところに違和感がありました。

その辺りの千葉らしさ、魅力のある千葉らしさというところを発信して、私たちが千葉は、こういうところがいいし、これが千葉の魅力だよというのを、刷り込ませるしかないのかなと感じています。私は今新しい家、別荘を探しているのですが、千葉が候補に入りません。なぜかという、千葉は観光として考えたときに、どんづまりになっています。海に囲まれているので、そこに滞在して次にどこかに行こうと思ってもいけないというのがあります。でも、それを逆手に取ったら、観光の目玉にできるのではないかなとも思っています。自虐的ではないのですが、そういうこともできるのではないかなとも思っています。ただ、それを県が言ったら、あまりよろしくないかなと思うので、そういう発信の方法、千葉らしさのアピールをもっとしたほうがいいと考えています。

例えば、この「のびのび子育てライフ」のところでも、一戸建が手ごろな価格で手に入る千葉と書いていますが、市川等で探してもそれほど手ごろではなかったりもしました。もう

少しこのイメージも、房総の先であれば、手ごろだなど、もう少し具体的になるといいなあと思っていました。

全体的に、結局は人の問題だと思います。人流が千葉に多く集まってくれば、この総合戦略はいらないと思っています。人を呼び込むためにどうするかを常に考えていくと、やっぱり千葉には魅力がないのかなと感じざるを得ません。先日、横浜に遊びに行ったら、たくさん人がいらっやって、横浜と比べるなら千葉であれば千葉市、千葉駅周辺だと思いますが、あまり集客力のある建物施設も、魅力もないなと感じたので、そういったものを積極的に作っていかねばいけないのかなと感じています。やっぱりベンチマークをおいて欲しいなと思います。よく「ださいたま」などと言って、埼玉を馬鹿にする人もいますが、私、埼玉にも千葉は負けていると思います。茨城にもどうだと言われると、茨城にも負けているのではないかと考えています。千葉の魅力や呼び込むための施策をもっと具体的に深掘りして、考えていただきたいというところです。

個別の話になりますが、農業の話が出ていましたので、私も農業で気になっていたことがあります。そもそも農業をやりたいと思っていても、農地がない、または、借りられない、譲ってくれないという問題があると思います。やはり農業は大規模にすることによって、それなりの利益が出てくる業種だと思いますので、そういったところも千葉県が中心になって、たくさん、広い農地が借りられるような施策をやっていただけたら、もう少し農業の就業人口も増えるのではないかなと思っています。千葉県の農業就業者で、6次産業化等をやられている方はすごくいいものを持ってらっしゃるので、若い方々に集まってきてもらう、人を呼び込む魅力というか、きっかけにはなると思いますので、農業というところももう少し検討して、取り組んでいただければいいのではないかなと感じました。

○明石座長

はい。ありがとうございます。

千葉らしい生活の事例というのは、事務方が一生懸命考えてくれた題提起だと思います。このように問題提起することによって、策定懇談会の委員の皆様で穴埋めしていただくと助かると思います。私もなぜ大学生のいないのかと思っています。先ほど、40の大学、73の専門学校があると言いましたが、千葉県は若者の町でもあるので、若者のライフスタイルがやっぱり欲しいというのがあります。また、75歳の団塊の世代は数が多くなっているのに、その団塊の世代の千葉ライフスタイルもない。ですから、このように事例を出してくれるから、新たな問題が出てくるので、非常に私は良い提案だと思って、うれしかったです。特に、20代、30代ケースが多く、県の職員でこのような発想があったのかと思いました。選挙でも議員さんは子供や高齢者のことを言いますが、よくぞここで、企画部が20代、30代のことを取り上げてくれた、個人的には非常に嬉しいことだと思っています。

はい。それでは、本日出席の委員の方々からご意見いただきました。今日、欠席されている方々のご意見を、事務局からご紹介いたします。

○角田政策企画課主幹

私から、欠席されている委員の皆様から事前にいただきましたご意見等をご紹介させていただきます。ある程度省略してご紹介させていただきますが、いただいたご意見も必ず参考にさせていただきます。

まず、小高委員からのご意見です。

千葉県が持つポテンシャルをしっかりと捉えつつ、更なる発展をもたらすような、課題の洗い出し、基本目標を掲げており、網羅されているのではないかと感じている。

東葛飾等、都市部で観光客が回復していないのは、外国人に頼っていた割合が地方部よりも高かったため、そのマイナス分が影響していると思われる。見方を変えると、今まで外国人観光客は都市部には来ていたが、地方部にはあまり来ていなかったといえるかもしれない。県内地域に偏りのないインバウンドの取り込みという点で、地方部への外国人観光客の誘致や県内における周遊促進という観点に着目していくと、全体としてもより多くのインバウンドが取り込めることに繋がるのではないかとのご意見をいただいております。

また、デジタルに関しても、外国人観光客の情報源は、インフルエンサーによる SNS やブログ等になっている。外国人観光客がデジタルを活用して行きたい先を選定しているという特性も踏まえ、戦略を打っていきたいところかと思うとの意見をいただいております。

続きまして、鳶津委員からのご意見です。

待機児童が「0」に近づいているにもかかわらず、子供を生み育てやすいと感じる家庭の割合が減少していることについて、今後詳細な要因分析を行ったうえで、新たな K P I の設定が必要ではないかのご意見をいただいております。

また、千葉らしいライフスタイルについては、多様な担い手を確保するため、別の仕事をしながら、農業をする半農半 X を反映させたライフスタイルを提示する必要があるのではないかというご意見をいただいております。

さらに、農地について、農地経営基盤強化促進法が最近改正されところであり、力強い農林水産業の確立に、農地の保全に関する取組を盛り込んでほしいとのご意見をいただきました。

その他の意見として、地域から人が流出していくことを食い止めるため、高校で地域産業に触れる機会を作る必要がある。実業系の高校だけでなく、普通高校においても、インターシップを必須項目とすることはできないかのご意見をいただきました。

続きまして庄司委員のご意見です。

観光と外国人延宿泊者数について、コロナ前と比べ都内でホテルが増えており、コロナ後も千葉県に中国人観光客が戻るとは限らない。団体客のオーバーツーリズム問題が発生しているところであり、今後は団体客よりも個人観光客を千葉県に取り込めるかが課題であるのご意見をいただいております。

また、千葉に住み続けたい大学生の割合が低いことについて、先程委員からもご意見をいただきましたが、千葉県は神奈川県、湘南や横浜に代表されるような若者文化が育っていないから、若者の転出に繋がっていると考えられる。今後は地域ごとに文化等に根づいた

ランド化を進めていく必要があるというようご意見をいただいています。

待機児童数について、他の自治体で待機児童数が「0」になり定員割れする保育園が生じている。一方で小学校の学童保育が保育園と比べ少ない。今後、待機児童が解消し、保育園が余ってきた場合、学童保育の対応に保育園が協力してもらう取組も検討が必要ではないかのご意見をいただいております。

さらに、交通基盤について、幹線道路だけではなく、街中の道路についても対策を検討する必要があるのではないかのご意見をいただいております。

デジタルについては、これまでのデジタル化とこれからのデジタル化の違いを意識すべきである。これまで先端的な人を対象に進めていたが、今後は若者に加えて高齢者等全ての人を対象にデジタル化を進めるべきである。これまでのデジタル化は先端的な実装実験を指していたが、今後は一線級で働いている人々の現場をデジタル化することを考えていかなければいけないのご意見をいただきました。

最後に、深谷委員のご意見です。

デジタル化に乗り遅れてしまいそうな人々に対するケアの視点はぜひ盛り込んで欲しいのご意見や、また、千葉らしいライフスタイルについて、6つのライフスタイルを包含する具体的な独自性のある定義にチャレンジ、これはチャレンジという言葉をいただきましたが、チャレンジしてみたらどうかのご意見をいただきました。

加えて、仮想のペルソナを設定しているが、すでに、事務局が提示したライフスタイルを実践している方の体験を情報収集することで、より具体的でリアリティ溢れるものに高めていったらどうか等のご意見をいただきました。

先ほど、境委員からKPI等について、県の意見を示していただきたいのご発言がありましたので、補足させていただきます。

若者の東京流出、待機児童、学校に行けない人々の手当などについては、確認していくためには、KPIの設定に足りないところがあるのではないかと、議論を深めるべきなのではないかのご発言でした。

確かに、戦略では個別具体的な事業について、1個1個KPIを設定するというよりも、それぞれの施策を代表的に取り上げられるような数値目標やKPIを設定させていただいております。これにつきましては、全体的な施策というものを総合的に見たときに、どのような評価をしていくべきかという視点から、推進が確認できるものとして数値目標やKPIを、大きく捉えられるところで設定させていただいているところがございます。

ただ、おっしゃる通り、色々なデータ、様々な指標があると思います。先ほど示しました若者の東京流出にしても、やはり若い世代は東京に流出してしまっている。それに対してどのような評価ができるのか。待機児童が減っているにもかかわらず、子育てに満足している人はなぜ下がっているのか。これはコロナ禍等の影響もあるのか、令和2年から下がっていないところを見るとその他にもいろいろ影響があるのではないかとといったところも、別の事業等を見ていく必要があるかと思っております。

そのようなところにつきましても、個別の事業、或いは施策の分析等によって、色々と考えながら評価していけるように、取り組んでいきたいと思っています。

戦略につきましても、ある程度多くの施策を内包できるよう、大きくKPIや数値目標を設定することになってしまうと考えています。

以上となります。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

これまでの出席の委員の方々のご意見を伺いました。

色々な委員のご意見をお聞きしたうえで、質問、意見がありましたらお願いします。

中元委員、どうでしょうか。

○中元委員

皆さんのご意見を聞きまして、吉野委員が広報戦略についておっしゃっていましたが、弊社でも当然、情報産業として伝えるということはしていますが、伝えるということが伝わっているとはイコールではないということがよくあります。県もこれをホームページに上げて、伝えることはするのですが、市町村レベルには伝わっても、県民レベルに伝わるかというところは難しいところがあると思います。その辺もやはりデジタルの活用等、様々な形での広報戦略を用いて、広げていって欲しいと思います。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

私の方からも1つ。先ほど、近藤委員がおっしゃったように、農業に参加したい方は、温度差はありますが、結構数が多いかと思います。そうしますと、前回申し上げたように、農業法人を作って、後継者を育成することをしないと、高齢化により担い手がいなくなってしまう。農業法人化は、神奈川県では結構やっておりますので、千葉県でも、人口が1万人以下の市町村は、9町村ありますから、そこの生きるすべとしても提供しなければいけないだろうとっております。

そして、もう1点として、今日知りましたが、千葉県で外国人が17万6,000人も住んでいて、これはすごいと思いました。そのうち大体7割、8割は東葛・湾岸ゾーンに住んでいて、人口1万人以下の町村では、外国の方も少ない。今後、1万人以下の町村が人口を維持するためには、やはり外国の方に来ていただいて、共存する仕組みづくりをしていかなければいけないと思っています。そうしますと、今、東葛等でされている共存の姿を人口1万人以下の町村にはどういう形で提供していけばいいか、その辺のことも含めて考えていただきたい。個人的にはもう1万人以下の町村をどうするかということの本気で考えていかないと、この人口減への対応ができないとっておりますので、ご検討いただければと思います。

本日は、各委員の方々から非常に大胆で面白いご意見をいただきまして、ありがとうございます。では質問もないようなので、事務方に何かあればお願いします。

○高橋政策企画課長

政策企画課長の高橋でございます。

一言お礼を述べさせていただきたいと思います。

非常に多岐にわたるご意見を委員の方々からいただきまして、私どもも大変参考になるご意見ばかりで、本当にありがとうございました。

いくつかコメントさせていただければと思います。

例えば、デジタルについて、今回の戦略は、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を踏まえた戦略ということで、デジタルを横串という形ではっきりわかるように入れていったらいいのではないかというようなご意見をいただいたところです。

まさにその通りだと思いますので、どういった形でこれを見えるようにできるか、工夫をしてみたいというふうに思いました。

また、人材育成の話や、或いは千葉らしさのペルソナについても、非常に色々なご意見をいただきました。

これらのご意見を踏まえて、どういう形でこれを見せていったらいいかというのを改めて、県でも議論をさせていただきたいと思っています。

それから、農業についても、非常に多くの委員からご意見をいただきました。これも千葉の農業による可能性等を含めて、すごく考えさせていただいたところでございます。

1点近藤委員からいただきましたが、農地を誰でも使えるようにした方がいいのではないかとのご意見につきましては、今年度、農地法が改正しまして、今までは農業法人などではないと農地を持てませんでした。それがもう少し小規模の方でも持てるようになりました。大規模化がいいのか、もう少し小さい規模がいいのか、これはまた議論のあるところですが、大規模化について言えば、県では農地中間管理機構という組織を設けていまして、耕作放棄地になりそうなところを寄せ集めて、農家の方が大規模に集約できるような、そのような仕組みを農林水産部で行っているところです。そのようなことも今回の戦略に改めて書き込んでいけたらいいかなと思っています。

最後に、広報戦略が必要というご意見について、まさにそうだと感じております。私自身も大学院で行政広報を勉強してまいりまして、そういったところが大変重要かと感じているところですので、これもご意見としていただいたような形でやっていけたらいいかなと思っています。私からは以上でございます。ありがとうございました。

○明石座長

はい。ありがとうございました。

事務局は、本日、委員の方々からいただいたご意見を踏まえて、より良い総合戦略を作っていたらいいかなと思っています。それでは本日はこれで議事を終わりたいと思います。

長時間にわたり、議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。